

〔第2回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

認知症治療への応用を目指した デリバリー担体の開発

ラジオアイソトープ管理室

中西 章 室長

2015年10月13日(火) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

アルツハイマー病に対する免疫療法は、アミロイドカスケード仮説に基づき、アミロイド沈着の過程を阻害してアルツハイマー病の進行を抑制することを目指すアプローチである。当初Aβペプチドの能動免疫（Aβワクチン療法）から始まったこのアプローチは現在、Aβの重合等を実験的に阻害できる種々の抗Aβモノクローナル抗体を用いた受動免疫によるものが主流になりつつある。当研究室では、アルツハイマー病に対する能動・受動免疫療法それぞれに対して治療効果の促進を目指したデリバリー担体の開発研究を行っている。Aβワクチン療法に対する導入担体の開発については、Aβペプチドを腸管に導入発現させるための経口ワクチン用ベクターとして利用するため、ノロウイルスを基にした導入ベクターの開発を行っている。今回の発表ではベクター開発に関する研究と共に高齢者に重篤な感染症を引き起しうる原因ウイルスとしての病原性発現に関する研究についても紹介したい。また抗Aβ抗体を利用した受動免疫に際しては、治療用抗体の脳実質への浸透を促進するため、血液脳関門透過性の向上を目指した導入モチーフの開発を行っている。その研究の進捗状況についても併せて紹介したい。

座長：丸山 光生